

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09020120

政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	2	林業の振興	事業優先度	B		
単位施策	1	生産体制の強化	政策事務分類	2	単独自治事務(個別計画)	
事業名	野ねずみ駆除事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町、雄武町森林組合		関係課	#N/A		
事業指標	町有林の野ねずみ駆除、民有林の事業推進		関係課	#N/A		
事業目標	野ねずみ被害防止、森林所有者の負担軽減		ハード/ソフト 事業区分	1	ハード事業	
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働			関係個別計画名	有 森林施業計画		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する助成	殺鼠剤の散布に対する助成	殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する助成	殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する助成	殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する助成	殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する助成	
	事業費(千円)	880	110	150	170	240	
計 画 事 業 費	国庫支出金	0					
	道支出金	210		24	39	64	
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	670	110	126	131	146	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	650	110	122	129	140	
	国庫支出金	0					
	道支出金	67		8	13	20	
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	583	110	114	116	120		
関 連 事 項	特定財源の名称 町有林野ねずみ駆除 事業補助金	(実施内容等) 殺鼠剤の散布に対する助成	(実施内容等) 殺鼠剤の散布に対する助成	(実施内容等) 殺鼠剤の散布に対する助成	(実施内容等) 殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する助成	(実施内容等) 殺鼠剤の空中散布 殺鼠剤の散布に対する助成	
	【評価・実績】						
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 年度達成率	野ねずみ被害防止、自己負担の軽減 100%	野ねずみ被害防止、自己負担の軽減 81%	野ねずみ被害防止、自己負担の軽減 76%	野ねずみ被害防止、自己負担の軽減 67%	野ねずみ被害防止、自己負担の軽減 62%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率 備考欄	13%	26%	41%	57%	74%

事業名	野ねずみ駆除事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	渡部 憲一

様式1  
平成29年度実施  
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	私有林、町有林	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	殺鼠剤の空中散布回数		
【抱える課題やニーズは】	カラマツが野ねずみから食害を受ける		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	被害の未然防止		① 散布回数÷計画回数	目標年度	平成29年度
				目標値	1回
実績値	1回				
達成度	100.0%				
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	人工林の健全な育成と森林資源の確保	②	目標年度	平成29年度	
			目標値		
			実績値		
達成度	#DIV/0!%				
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	私有林の野ねずみ駆除事業に対する補助	殺鼠剤散布に伴う森林所有者の費用負担が大きいことから、野ねずみ駆除事業費の一部を補助した。			
	町有林の野ねずみ駆除事業の実施	上沢木、沢木地区、幌内の町有林(カラマツ)の食害防止を図るため、殺鼠剤散布を実施した。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	私有林、町有林のカラマツを保護するため、殺鼠剤を空中散布し、樹木の食害を未然に防止するものであることから、必要性は高い。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	野ねずみによる樹木の食害が減少し、私有林及び町有林の資源確保が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	ヘリコプターでの殺鼠剤散布は、管内の他市町村と連携して取り組んでおり、管内一括でヘリコプターを借り上げることで、借上料も抑えられている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
<input type="checkbox"/> 人員削減		
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

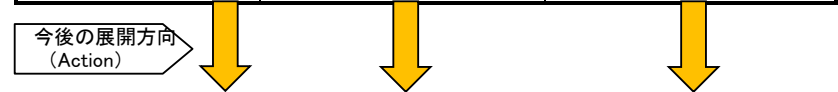
公平	判断の理由	町民の財産である町有林が持つ多面的機能の恩恵を誰もが享受しているので公平である。また、森林所有者も事業費の一部を負担している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
<input type="checkbox"/> 受益者負担がない		
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>A</b>		
私有林、町有林のカラマツを保護するため、殺鼠剤を空中散布し、樹木の食害を未然に防止するものであり、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
殺鼠剤の散布を実施することで、樹木の食害が減少し、私有林、町有林の資源確保が図られるとともに、本町の林業生産力の向上に繋がる事業であることから、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止